

《学部》大学における心理学教育調査（2026 年度）

調査の目的と意義

公益社団法人日本心理学会では、日本における心理学教育の一層の充実のため、また、心理学教育について国際間比較を行うという国際心理科学連合(International Union of Psychological Science: IUPsyS)の方針に基づき、学会事業として、全国の大学における心理学関連のカリキュラムや教員体制等に関する調査を行ってきております。

このたび、「大学における心理学教育調査」（第 3 回）を実施することとなりました。全国の心理学教育の実情をできる限り正確に把握するため、日本心理学会会員の皆様には、ぜひご回答いただきますようお願いいたします。

回答者の方へお願い

貴大学または貴部局などにおける心理学教育についての代表者（会員が望ましい）の方、あるいは代表者に依頼された方（1 名）にご回答をお願いいたします。

回答時間の目安は 10 分程度です。調査へのご協力は任意であり、途中でやめられても不利益になることはございません。回答は日本心理学会 教育研究委員会 調査小委員会が、統計的に処理し、公開いたします。回答の重複を避けるため、個人情報をお伺いしますが、個別情報には十分配慮し、個人情報が公開されることはございません。是非、本調査にご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。回答期限：9 月 18 日（金）

貴大学の複数部局で心理学関連科目を担当している方がいらっしゃる場合は、それぞれの部局ごとにアンケートにご回答いただいておりますので、自部局の状況のみ、お答えください。

※本調査の協力に同意いたします

☐（チェックを入れてください）（必須）

所属大学学部（短期大学を含む）等についてお伺いします（2026 年 5 月 1 日時点のデータで回答ください）

1 所属大学の形態（短期大学を含む） いずれかに○をつけてください。（必須）

1. 国立大学 2. 公立大学 3. 私立大学 4. その他（ ）

2 これから貴部局における心理学教育についてお伺いします。まず、貴部局で心理学教育をおこなっている課程、名称、心理学を担当する専任教員数/基幹教員数（任期付き教員を含む）についてお答えください。以下のうち、該当するもの 1 つに○をつけた上で、名称（大学名から）をご記入ください。なお、いわゆる一般教養科目の 1 つとして心理学教育をおこなっておられる場合は、「その他」にその旨をお書きください。
名称例：○○大学○○学部○○学科○○専攻（必須）

該当	課程	名称（大学名から）	専任/基幹教員数
	学士	大学	
	短期大学士	短期大学	
	その他（ ）	大学	

3 2 で○をつけた課程の専任教員数/基幹教員数のうち任期付き教員数をお知らせください。貴部局にある課程のみお答えください。

任期付き教員数	
---------	--

4 貴部局の心理学に関する学位論文を書く，または専門的研究を行う，1 学年の全体の学生数，およびその中の女性，留学生の割合（％）をお答えください。

	学士
(1) 心理学に関する学位論文を書く，又は専門的研究を行う，1 学年の全体の学生数	
(2) (1)の内，女性の割合（％）	
(3) (1)の内，留学生の割合（％）	

5 貴部局の心理学教育のカリキュラムについてお伺いします。学士，短期大学士の各課程における必修科目（選択必修を含む）に◎，選択科目に○を記入してください。「ほぼ同じテーマを扱う科目があるが，名称が異なる」場合でも，同様にご回答ください。

※なお，「授業科目」は国際心理科学連合（IUPsyS）の国際比較調査及び公認心理師科目に準じて設定しています。

授業科目	
一般教養（外国語，人文・社会・自然科学等）	
心理学概論	
心理学史	
感覚・知覚心理学	
認知心理学	
学習心理学	
言語心理学	
発達心理学	
生理心理学/神経心理学	
比較心理学/動物心理学	
社会心理学	
家族心理学	
集団心理学(グループ・ダイナミックス)	
個人差心理学 (Differential Psychology)	
パーソナリティ/性格心理学	
感情心理学	
心理統計学，データ解析	
心理学研究法	

その他（ ）	
その他（ ）	
その他（ ）	
その他（ ）	
その他（ ）	
その他（ ）	
その他（ ）	
その他（ ）	

6 貴部局の心理学教育において、卒業までに身につけるべきだと、部局として考えるスキルや能力についてお知らせください。必ず身につけるべきものに◎、身につけておいた方がよいものに○をつけてください。

身につけるべきスキルや能力	
1. 心理学の基礎的概念や主要な理論を理解する	
2. 心理学の理論と方法論の発展を理解する	
3. 人々は多様であり、心の働きが集団や文脈によって異なることを理解する	
4. 個人・社会における心理・行動の理解や問題解決に、個人的経験や疑似科学ではなく、心理学の概念や理論を用いる	
5. 人が陥りやすい誤りやバイアスの種類（確証バイアス、相関と因果の混同など）を学び、それに陥らない批判的思考を行う	
6. 変数の操作的定義に基づいた検証可能な研究仮説をつくる	
7. 心理学的な根拠が明確な先行文献を検索する	
8. 心理学の日本語専門雑誌論文を読む	
9. 心理学の英語専門雑誌論文を読む	
10. 実験や調査結果の表やグラフを作成する、読み取る	
11. 推測統計（t 検定、F 検定等）を理解し、分析をする	
12. 多変量解析（因子分析など）を理解し、分析をする	
13. 実験研究を、そのデザインや測定の妥当性について理解した上で実施する	
14. アンケート調査を立案し、実施、分析する	
15. 研究に必要な IT スキル（コンピュータ活用能力）を身につける	
16. 証拠に基づいてレポートを論理的にまとめる	
17. 議論や発表のためのコミュニケーションスキルを身につける	
18. 『心理学研究』など学会誌の執筆要項に基づき論文を書く	
19. APA マニュアルに基づく英語論文を書く	
20. 心理学の知識を自己理解や自己管理、自分の成長に生かす	

21. 心理学の知識と経験を、自身の進路、キャリア開発に活用する	
22. 心理アセスメントの代表的な方法を理解し、査定（実施、解釈、フィードバックなど）をおこなう	
23. カウンセリング、心理療法の基礎的な技法・態度を身につけ、心理面接をおこなう	
24. 心理学の知識に基づき、集団、コミュニティに関わり、支援する	
25. 社会、文化、個人などの観点で、人々の多様性を尊重する	
26. 心理学研究における研究協力者の権利保護などの倫理問題を理解し、実践する	
27. 対人支援における倫理問題を理解し、実践する	

7 貴部局の心理学教育では、授業をどのような形態で実施していますか。部局全体として見た場合のそれぞれの形態での実施割合について、あてはまるものに○をつけてください。

※なお、形態・回答カテゴリは国際心理科学連合（IUPsyS）の国際比較調査に準じて設定しています。

	なし	少し(30%未満)の授業	約半数の授業	大半(60%より多く)の授業	全ての授業
講義					
ゼミ					
教員の個別指導					
実験・調査実習					
インターンシップ（現場実習）					
教員の研究プロジェクトに参加する授業（Research Assistantship）					
上級生による指導や参加者同士が教えあう授業（Peer Tutoring）					
すべて英語で実施している授業					

8 2026年度時点で、貴部局の心理学教育のカリキュラムは、どのような資格取得に対応していますか。各カリキュラムにおいて、取得できる資格に○を記入してください。

資格名	
公認心理師	
認定心理士	
認定心理士（心理調査）	
社会調査士	
学校心理士（准学校心理士）	

9 貴部局の心理学教育に関して、課題となっている点、日本心理学会への要望、この調査へのご意見などがあれば、お聞かせください。

以上でアンケートは終わりです。調査にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

★下記の内容をご記入ください。後日、この調査の結果をお知らせします。（必須）

大学名・部局名	
氏名	
役職(例：教授，講師， 学部長，学科長，研究 科長，専攻長，教務委 員など，複数ある場合 はできるだけすべてご 記載ください)	
勤続年数	
E-mail	

誠に勝手ながら，アンケートは**2026年9月18日までに** メール添付で，下記回答先までご返送ください。

なお，本調査は Web でもご回答いただけます。

Web 入力フォーム：<https://forms.gle/h6U8TZom5aBfa6TA7>

調査票ダウンロード URL：https://psych.or.jp/2026survey_psychedu/



回答先・問い合わせ先

公益社団法人日本心理学会

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-23-13 田村ビル内

TEL：03-3814-3953 FAX：03-3814-3954 メール：jpa@psych.or.jp